



うちのイチ押し!

大阪城 天守閣 特別展

「豊臣家ゆかりの“天女の島”
—びわ湖竹生島の歴史と宝物—
を開催します

3月20日(金・祝)～5月10日(日)

琵琶湖に浮かぶ竹生島は、古くから西国三十三所の観音霊場の一つとして、また「天女」と呼ばれた弁才天(べんざいてん)をまつる聖地として、人々の信仰を集めてきました。この島は長い歴史のなかで、豊臣家とも深い関係を結んでいます。湖岸に長浜城を築き拠点とした秀吉が島を保護しただけでなく、秀吉没後にも豊臣家が堂舎の再興を支援しました。その際大阪城ゆかりの建築物が運びこまれたことから、豊臣家と島の特別なつながりがうかがえます。

豊臣大坂城極楽橋の遺構とみなされる竹生島宝厳寺(ほうごんじ)の唐門をふくむ建造物の保存修理事業が平成25年度から行われ、令和元年度につつがなく竣工の運びとなりました。本展はこれを記念して開催するものです。重要文化財「竹生島文書」をはじめ、仏画や仏像、刀剣、工芸品など宝厳寺の主要な宝物を関連資料とともに展示します。この機会に島の豊かな歴史について理解を深め、また伝来の美術品を堪能していただければ幸いです。

なお、この特別展は大阪城と長浜城の姉妹城連携事業として、長浜市長浜城歴史博物館との協力のもとで開催いたします。

ともに豊臣秀吉によって築かれた大阪城と長浜城は昭和58年(1983)、大阪では築城開始から400年、長浜では現在の長浜城天守閣が完成し、長浜城歴史博物館として開館という、ともに記念すべき年を迎えたことを機に、姉妹城提携を結びました。



開催場所 大阪城天守閣 3・4階展示室

時間 9:00～17:00

【桜のシーズン開館延長】

3月20日(金・祝)～4月5日(日)まで
9:00～19:00(2時間延長)

【ゴールデンウィーク開館延長】

4月29日(水・祝)～5月6日(水・振休)まで
9:00～18:00(1時間延長)

※いずれも入館は閉館の30分前まで

特別協力 竹生島宝厳寺

問合せ 6941-3044

施設情報・観覧料はp12をご確認ください。

※この特別展は大阪城天守閣の平常入館料でご覧いただけます。



おおさか歴史探訪 143

大阪の史跡や歴史資料を毎号連続でご紹介します。

江戸時代大坂の桜の名所 新町九軒町の桜

3月も半ば近くとなり、まもなく桜の咲く季節となります。大阪の花見といえば、造幣局や大阪城公園が代表的です。造幣局の桜の通り抜けが始まったのは明治16(1883)年と古く、当時の局長の提案により一般公開がされるようになったそうです。造幣局の敷地は、もとは津藩藤堂家の蔵屋敷で、桜は蔵屋敷時代から植えられており有名でした。その桜を造幣寮(現在の造幣局)が敷地とともに引き継いだそうです。

このほか江戸時代の大坂には、どんな桜の名所があったのでしょうか。安政年間(1854～1860)頃に大坂とその近郊の名所を描いた『浪花百景』には、当時の桜の名所も描かれています。そのひとつに新町九軒町の桜があります。

大阪市西区の新町には当時、江戸の吉原、京都の島原と並ぶ遊郭がありました。新町といえば、名妓として知られた夕霧太夫が有名です。近松門左衛門や井原西鶴の作品にも描かれた彼女の登場した吉田屋があったのが新町九軒町です。九軒町では文化6(1809)年に大火が起こり、通り筋が焼失してしまいます。これをひとつのきっかけとして、文政2(1819)年に新町振興策の一環として桜が植えられました。以後、桜の季節には太夫道中が行われたので、これを見ようと多くの見物客が訪れたそうです。

当時桜並木のあった場所は、現在は新町北公園になっており、北側の道路に面して桜が植えられています。一昨年の台風の被害を受けたのか、並木の一部は新たに若い桜で植え替えられています。当時の面影をしのぶことができます。時代は流れ、周囲のようすは大きく変化しましたが、桜をたのしむ私たちのところは当時の人々と変わっていないのではないのでしょうか。

(大阪市教育委員会事務局 文化財保護課)



「新町九軒町桜堤の跡」石碑と新町北公園の桜並木